四国八十八札所お遍路報告書

報告者　後藤隆徳

年月日　　２０１１年月１１月０１日（火）～０７日（月）

回　数　　第３回・四国お遍路

参加者　　後藤隆徳、陶山節子、山口五月、渡辺典子、鈴木新平、鈴木綾子、高岡八千代、土屋弥生、陶山泰信（お遍路でなくランニング）＝８名＋１名

巡礼寺・順

●２５番札所　津照寺（しんしょうじ）高知県室戸市室津２６５２-イ

＊ 本尊・楫取延命地蔵菩薩　＊ 山号・宝珠山　＊ 宗派・真言宗豊山派

＊ メモ＝室戸岬から海岸沿いを六㌔ほどゆくと町中に小高い山があり、その山上に本堂がある。参道右に大師堂と本坊。本堂へは１２５の急な石段があり、ご本尊は大同二年、弘法大師が巡錫されたときに刻まれた延命地蔵菩薩。秘仏で拝観はできないが、海上の安全と火難除けの霊験あらたかという。

●２６番札所　金剛頂寺（西寺・こんごうちょうじ）高知県室戸市元乙５２３

＊ 本尊・薬師如来　＊ 山号・龍頭山　＊ 宗派・真言宗豊山派

＊ メモ＝津照寺をあとに、室戸から西北へたどると土佐湾に向って小さくつき出した岬がある。硯の産出で知られる硯ケ浦のある行当岬で、海抜二百㍍の頂上に金剛頂寺がある。室戸岬の最御崎寺と相対しているので最御崎寺を東寺、金剛頂寺を西寺ともいう。

●２７番札所　神峯寺（こうのみねじ）高知県安芸郡安田町唐浜2594

＊ 本尊・十一面観世音菩薩　＊ 山号・竹林山　＊ 宗派・真言宗豊山派

＊メモ＝「真っ縦」といわれる勾配四十五度の一.三㌔の急坂で知られた土佐の関所。寺のある山頂までは三・三㌔あるが、遍路で難行した宮地達観「真っ縦」といわれる勾配四十五度の一.三㌔の急坂で知られた土佐の氏の奉仕で自動車道が開通し、歩かずして山門までゆける。
三菱王国を築いた岩崎弥太郎の母は、幕末のころ弥太郎の開運を祈願して、この急坂を登り、二十一日の間二十㌔離れた井ノ口から神峯寺へ日参した。やがて弥太郎は大成し後に山林を寄進し、報恩を感謝している。

●２８番札所　大日寺（だいにちじ）高知県香美郡野市町母代寺４７６

＊ 本尊・大日如来　＊ 山号・法界山　＊ 宗派・真言宗智山派

＊ メモ＝　江戸時代のころ土佐の国へ入るには、国手形（身分証明書）や添手形（通行許可書）指定された道の通行、期間、一定の旅費を所持した者などこまかい制約があった。遍路は大師の遺跡を苦行して歩く

求道者であるが、このころは社会の敗残者がまぎれこみ、きびしい取蹄りとなった。現代は自由で物資も豊富、交通機関も発達し、それだけに信仰の旅が観光になりかねないけれど、土佐は修行の霊場、精進したい。

●２９番札所　国分寺（こくぶんじ）高知県南国市国分５４６
＊本尊・千手観世音菩薩　　＊ 山号・摩尼山　　＊ 宗派・真言宗智山派
＊メモ＝野市から日章、後免へと田園地帯をたどる。「土佐はよい国南をうけて、年にお米が二度とれる」と、香長平野では水稲二期作が盛んで、水田開発にあたった野中兼山の名はよく知られている。国分寺は後免駅から北西へ約四㌔入った国分川の北にある。こんもりとした樹木におおわれ、その周囲には往時を物語る土壇が残っている。明暦元年（一六五五）の仁王門を入れば、柿葺き寄棟造りの金堂（本堂）がある。

●３０番札所　善楽寺（ぜんらくじ）　高知県高知市一宮しなね２丁目 23-11
＊本尊・阿弥陀如来　　＊ 山号・百々山　　＊ 宗派・真言宗豊山派
＊メモ＝国分寺から高知の市街へ入る手前に土佐一宮がある。かつては神辺郷といい、土佐では最も古く開けたところで、桓武天皇のころ、弘法大師がこの地に巡錫し、土佐一ノ宮の別当寺として善楽寺を建立し、三十番の霊場とした。以来、一ノ宮別当寺として法灯を維持してきたが、明治の廃仏毀釈で廃寺となった。

●３１番札所　竹林寺（ちくりんじ）高知県高知市五台山３５７７
＊本尊・文殊菩薩　　＊ 山号・五台山　　＊ 宗派・真言宗智山派
＊メモ＝聖武天皇は唐の五台山で文殊菩薩を拝まれている夢をみられ、わが国にもこれに似た霊地があるにちがいないと、行基菩薩に探し出すよう命じられた。神亀元年（七二四）行基菩薩は五台山に似た山容を見つけ、ここに寺を建立し、栴檀の木に文殊菩薩を刻んで安置した。これが竹林寺のはじまりで、後に弘法大師が巡錫され、札所に定められた。

●３２番札所　禅師峰寺（ぜんじぶじ）高知県南国市十市 3084
＊本尊・十一面観世音菩薩　　＊ 山号・八葉山　　＊ 宗派・真言宗豊山派
＊メモ＝　五台山をあとに、下田川を渡り、トンネルを抜けると、目前に百㍍あまりの小高い山があらわれる。この山容が観世音の補陀洛山（理想の山）さながらで八葉の蓮台に似ていることから、大同二年（八〇七）弘法大師が巡錫して八葉山の山号をつけ、霊場としたという。

●３３番札所　雪蹊寺（せっけいじ）高知県高知市長浜８５７－３

＊本尊・　薬師如来　＊ 山号・　高福山　　＊ 宗派・臨済宗妙心寺派
＊メモ＝昔の遍路は種崎から長浜へ船で渡ったが、今は浦戸大橋ができて便利になった。長浜は長曽我部元親の城下町としてひらけたところで、町を抜けると秦神社があり、祭神に元親の像がまつられている。この神社の隣りに雪蹊寺がある。延暦年間に弘法大師によって開創され、当初少林山高福寺と称し、その後運慶、湛慶のゆかりで慶運寺に改めた。石柱の門を入れば観音堂、鐘楼、大師堂、本堂がある。ご本尊は薬師如来。脇他は日光・月光菩薩、いずれも運慶晩年の作。

●３４番札所　種間寺（たねまじ）高知県高知市春野町秋山７２
＊本尊・　薬師如来　　＊ 山号・　本尾山　　＊ 宗派・真言宗豊山派
＊メモ＝吾南平野の米とそ莱どころで知られるだけに、田園の用水に沿ってへんろ通がつけられている。田園の中に地蔵堂、本坊、持仏堂、大師堂、観音堂、本堂があり、それに相対して石仏が並ぶ。観光客とは無縁なだけに静かな札所。

●３５番札所　清滝寺（きよたきじ）高知県土佐市高岡町清滝５６８－１
＊本尊・　厄除薬師如来　＊ 山号・　医王山　　＊ 宗派・真言宗豊山派
＊メモ＝　土佐の町から西へ向うと前方に山々が立ちはだかる。山麓の農家には土佐の手漉和紙の原料楮がみられ、急坂を約八百㍍ほど登った山（海抜四百㍍）の中腹に清滝寺がある。この境内の一角に「いらずの山」と称し、誰人も近づかない所がある。そこに弘法大師の十大弟子に数えられる真如の建てた逆修の塔がある。真如は入唐後さらにインドへの求道の旅をつづけ、途中不慮の死を遂げた。

●３６番札所　青龍寺（せいりゅうじ）高知県土佐市宇佐町龍旧寺山６０１
＊本尊・波切不動明王　　＊ 山号・　独鈷山　　＊ 宗派・真言宗豊山派
＊メモ＝宇佐の渡し（龍ノ渡シ）は、弘法大師が八人の供を残し、その子孫がこの渡しを近年まで守りつづけてきた。しかし宇佐大橋が開通してこの渡しはなくなった。昔の遍路はいくつもの川や海を越えたが、その多くは渡し舟を利用した。ところが橋がかかり、海岸線に道路が開通するにおよんで渡し舟は姿を消してゆくのである。弘法大師は中国留学中、青龍寺の恵果阿闍梨について学ばれたが、帰国にあたって師の恩に報いるために有縁の勝地を選ばれるようにと、明州から東に向かって独鈷杵を投げられた。独鈷杵は東方に飛び、やがてこの地の山上にある松に止まった。帰国した大師はこの地へ巡錫して独鈷杵を感得し、弘仁六年（八一五）嵯峨天皇に奏聞して一宇を建て、自刻の浪切不動を安置し、恩師を慕って寺名を青龍寺とした。仁王門を入ると滝があり、行場になっている。百二十段余りの石段を登りつめたところが本堂。海上安全を祈る漁民の多くの絵馬が納められている。

参加費　　バス代＝６０，０００ー、宿泊費＝４１，０３０ー（５泊）

使用バス　　清水町・ドリーム観光（ドライバー・Ｔ）

経費　　寺経費はない

第１日目

１１月０１日（火）晴のち小雨　　歩行距離＝６．２Ｋｍ

清水町３：００―ヨーカ堂前３：１０―下土狩駅３：１５ーなめり駅３：２０ー竹沢種苗―東名―浜名湖ＳＡ―新名神―淡路ＳＡ１０：２５―前回最終地発１４：３０ー２５番・津照寺１５：００～２５ー２６番・金剛頂寺１６：２５～４０ーバス―民宿「うらしま」（泊）１７：２０

第３回お遍路。出だしの天気は良かった。淡路ＳＡには前回より早く着いた。室戸岬で休憩。自転車に大きな荷物を付けて回っているオジさんがいた。前回最終地の室戸署近くから出発。Ｒ５５を北上して津照寺着。赤い山門と長い階段の先に、竜宮城の様な鐘楼があった。

津照寺

金剛頂寺

民宿「うらしま」

この辺りは、室津港が近く魚屋には、豊富な魚が並んでいた。だいぶ遅くなったが、今日の宿「うらしま」前を通過し、金剛頂寺まで頑張る。お寺は山の上で、標高約１５０ｍある。ショートカット道を上る。なかなかの道だった。

お勤めを済まし、バスで山を下り、今日の宿「うらしま」に入る。民宿の経営者は不在で、従業員の応対はイマイチだった。Ｓさんが掛け軸を忘れて来て、どうするかいろいろ知恵を絞った。

第２日目

１１月２日（水）小雨のち晴　　歩行距離＝３２．５Ｋｍ

起床５：３０ーバスー金剛頂寺発６：４０ー御霊跡１０：４０ー昼食「ホテル・なはり」１１：４５～１２：４５ー神峰寺入口１４：１０ー２７番・神峰寺１５：２０～１６：１０ー遍路道１６：４５ー民宿「浜吉屋」（泊）１７：００

朝からスッキリしない天気。バスで寺まで上り記念撮影。ここから山道を下って海岸に出る。以後、遍路道はずっと海岸線を進む。吉良川町は、古い街並みが続き「重要伝統的建造物群保存地区」の大きな看板があった。

羽根岬はショートカットの山道があった。最頂部の峠は、室戸市を俯瞰する気持ち良い所。このころより天気はいい感じになった。

吉良川町並み

羽根岬の峠

この先に大師堂と御霊跡があった。奈半利町に入った。ホテル「なはり」で昼食を摂った。ビアをいただき、サバ定食・焼き肉などを食べた。このホテルは、バスお遍路さんも利用するようだ。

安田町から神峰寺に向かう。この寺も山上だ。標高約４００ｍある。これはなかなか厳しい。時間が遅いので飛ばして、汗だくだくで上る。杉の木撤去で大きなクレーンが入っていた。お勤め後、山を下る。クレーン作業の警備の方が、新しい道を教えてくれた。上って来た道の途中から右折して西に下って行く道だった。

下りきった所にお遍路案内があった。今日はここで終了。バスで今日の宿「浜吉屋」に入る。嫁さんがいないで、親子でやっていた。オババは８０何歳かだったが、なかなか手際は良かった。他のお遍路さんも何人か宿泊していた。

神峰寺

浜吉屋

浜吉屋のオババさま

第３日目

１１月３日（木）小雨のち晴　　歩行距離＝３４．１Ｋｍ

起床５：３０ーバス６：３５ー昨日最終地発６：４５ー岩屋大師７：３０—昼食「土佐ロイヤル・ホテル」１１：３０～１２：５０ー琴ヶ浜１３：２０ー丸米旅館１６：０５ー２８番・大日寺１６：３０～５５—丸米旅館（泊）１７：３０

また、朝からスッキリしない天気。大雨でないがシトシト・ショボショボって感じ。南から湿った空気が入っている。四国山地で雲が遮られ、西側の瀬戸内はいい天気。昨日最終地までバスで行って出発。今日も基本的には海岸線を歩く。１時間ほど行くと大きな岩をくり抜いた岩屋があって、喫茶店と仏様があった。

この先は、防波堤歩道が続く。脇を阿佐線（ごめん・なはり線）が走る。時々、一車両だけゴ—と通過する。通勤・通学時間で満員だった。

防波堤は秋の台風で所々決壊し、大きな砂袋が置いてあった。その度に国道を迂回しなければならない。この辺は「ナス」の一大産地だった。大きな温室がいたるところにあり、見事なナスがたわわに実っていた。

気温が高いこの地は１１月でも温室なら十分育つ。そのほかショウガも凄い。静岡に帰り改めて観察したら、この時期のナスは殆ど高知産だった。

ほかに珍しい「イモの花」も発見。やっぱり暖かいのだろう。

ナス

サツマイモの花

昼食の時間になったが、食堂がなかった。あったが、今日は祭日で休みですに、参りました。バスで探しに行く。Ｔ運転手は、一回探しに来たが無かったと言う。そこを再度行ってくれで、渋々嫌々ながらのイライラ運転。ところが、土佐ロイヤルホテルで昼食をやっていた。看板が進行方向逆でＴは気がつかなかったようだ。

バスを左側に止めて後続車が切れるのを待ってＵターンのタイミングを窺う。交通量が多くなかなかターン出来ない。しばし待ち、とその時、バスは後ろ右手をよく確認しないでターンに入った。

しかし、軽が来ていたのだ。道路半分出たバスに軽は衝突寸前、ヒラリとかわし反対車線に大きくはみ出し、瞬間傾き転覆しそうな二輪走行だった。一瞬の出来事だったが、バス内に悲鳴が走った。危なかった。もし、対向車線に車が来たら重大事故だっただろう。Ｔ運転手はプロとして猛省を促したい。

「土佐ロイヤルホテル」は、近くに安芸市営球場があり、阪神タイガースがここでキャンプを行い宿泊するホテルだった。いたるところに歓迎旗がなびいていた。刺身定食を食べたが美味しかった。

午後は「日本白砂青松１００選・琴ヶ浜松原」を通過し、道の駅「やす」で龍馬ポーズを気取った。

琴ヶ浜

龍馬ぞよ！！

赤岡町に入り、今日の宿「丸米旅館」前を通過し、大日寺に向かう。すぐ近くの話だったが、寺まで２Ｋｍの長いこと長いこと。私はご朱印が明日だと、厄介なので走って行ったが、もう、死にそうでした。（笑い）

時間が遅くお勤めが十分出来なかったので、明朝、再度訪れることとし、宿に向かった。「丸米旅館」は、安かったが綺麗でトイレが部屋にあり、ウォシュレットだった。これは、四国お遍路で初めてだった。だだ、残念なことにシーツは使い回しだった。

夕食は豪勢だった。女将のサービスでニンニクが山盛りの土佐造り。これは、疲れた体にサイコーでした。

掛け軸を忘れたＳさんは、娘さんに頼みこの宿に宅急便で送って貰った。そして電車・公共バス利用して２５番・清照寺まで戻りご朱印を頂いた。ドリーム観光バス利用の手もあったが、Ｓさんは自身のことは自身で決着をつけた。

この日、途中で東京の中年男性と歩きを共にした。彼は勤め人で時間が余り取れない。金曜日夜、品川発のバスで徳島に早朝着き、電車・バスを乗り継ぎ来るという。今回は連休だったが、いつもは土・日曜歩いて、時には飛行機で帰京するそうだ。

この方とは数日一緒だったが、驚いたのが東海自然歩道を１０年掛けて踏破したそうだ。しかも、内容が奮って、全て「日帰り」にこだわったそうだ。世の中、様々な方がいると思った。

丸米旅館おかみ

大日寺

ニンニク山盛り
土佐造り

第４日目

１１月４日（木）晴　　歩行距離＝２４．２Ｋｍ

起床５：３０ー宿発バス６：５５ー大日寺下７：１５—２８番・大日寺７：３０ー４５—２９番・国分寺１０：００～３０ー昼食・一宮（いっく、と読む）「兼山」１２：１５～１３：１０ー３０番・善楽寺１３：２５～５０—牧野富太郎記念館１５：２０～３５ー３１番・竹林寺１５：３５～１６：０５ー下田川地先１６：２０—バス—桂浜荘（泊）１７：１５

今日は天気が良さそうだ。バスで大日寺下まで行き、改めて寺でお勤めを済ます。自転車通学の学生に見送られ、国分川を渡る。後は田舎道を進む。途中に立派なお堂があった。トイレもあり良かった。この先でＹさんが、「へんろいし饅頭」を買った。これは名物らしく、国分寺でいただいたが美味しかった。

立派な山門の国分寺に入る。本堂・境内は素晴らしかった。中に「酒断地蔵尊」があった。私は不謹慎だったが、「断」を手で覆って、「減」として記念写真を撮った。（スミマセン）

酒（減）地蔵尊？？

国分寺

へんろいしお饅頭

寺を後にして、国分川沿いに進み、小さな峠を越えて一宮（いっく、と読む）に入り昼食となった。今回も地元の食堂利用が多かった。地元食堂は様々な顔が見えて楽しい。
この日は、夫婦で営業する「兼山」。女将は、気風のいい方。ビアをガンガン、持ってきてくれた。

食堂「兼山」と女将

善楽寺

昼食後、すぐ近くの３０番・善楽寺に向いお勤め。ここから賑やかな市内を通過し、今回どうしても寄りたかった、「牧野富太郎記念館」に向かう。故牧野富太郎氏は、植物学者で高山植物の研究でも知られる方。

この植物園は、標高約１５０ｍの五台山にあって、すぐ隣には３１番・竹林寺が続く。北側の遍路道から上り植物園に入る。中は有料館と無料展示館があった。温室には珍しい花、美しいランやミャンマーバナナが実っていた。

見学後は竹林寺に入る。ここには赤い大きく立派な、五重塔があった。本堂は工事中でシートに覆われていた。境内には、「五智如来」（ごちにょらい）と呼ばれる、立体曼陀羅があった。これは、大日如来のさとりの世界を表した立体曼陀羅とのこと。

寺を辞して山を下り、下田川の沿って進み、県道Ｒ２４７に出る。今日はここで終了。目前の禅師峰寺まで行けなかった。バスで今回最高に期待の「桂浜荘」に向かう。「桂浜荘」には、「はちきん湯」があった。はちきん、とは？？・・・。

はちきんとは、「男勝りの女性」を指す土佐弁。ならびに高知県女性の県民性を表した言葉である。話し方や

竹林寺

行動などがはっきりしており快活、気のいい性格で負けん気が強いが、一本調子でおだてに弱いといわれる。後ろを振り返ることなく前進し続けるといった頑固さや行動力あふれる点で、土佐の男性と共通する。

早朝、Ｓさんと桂浜に下った。懐中電灯で宿から急な階段を下りて行く。灯台があり、大きな龍馬像が東の海を睥睨していた。強風で波は荒かった。

第５日目

１１月５日（金）終日小雨　　歩行距離＝３０．７Ｋｍ

起床５：３０ー宿発バス６：５０ー下田川地先７：３０—３２番・禅師峰寺８：２０～８：５５—種崎渡し船１０：３５～１１：１５ー３３番・雪蹊寺１１：４０～１２：００ー昼食・長浜「竹村食堂」１２：１５～１２：５５ー３４番・種間寺１４：４０～１５：１０ー仁淀川地先１６：３０ー三陽荘（泊）１７：００

朝から天気は悪かった。シトシト雨が続く。例によって太平洋南岸が悪い。バスで昨日最終地まで行く。左手前方の小高い所に禅師峰寺はある。裏の山道を上る。雨が流れ滑る。ひと上りで境内着。眼下に太平洋が広がり、ビニールハウスが凄い。

山を下りて種崎に向かう。３３番・雪蹊寺は岬の対岸なのでフェリーで渡る。このフェリーは、高知県営で無料。自動車は乗れないが、自転車・バイクはＯＫ。所用時間は、１０分程度。船長は親切な方だった。

フェリーと船長さん

無事、渡り終えて雪蹊寺に向かう。長浜は大きな町ではないが、何故か賑やかだった。ぼちぼち昼食時間なので、食堂に目星をつけて境内に入る。この寺は、

・・・寺歴をたどると後に寺は荒廃し、月峰和尚が元親に依頼されて寺を再興し、元親の死後その菩提寺となり、元親の法号にちなみ、雪蹊寺となった。明治以後は大玄和尚が再興された。三島龍沢寺の今はなき山本玄峰師は、若い頃失明に近い眼病にかかり、その回復を祈願し素足で七回目の遍路中、大玄和尚と出会い「心眼をひらけ」の一言で出家したという。・・・

と、私たちと少なからず、ご縁のあるお寺で、山門左手に玄峰老師の記念碑があった。Ｓ、Ｙさんがそれをしっかり確認していた。

昼食は、少し戻り「竹村食堂」で摂った。この店は７０過ぎの奥さんに先立たれた気のいいオヤジと近所のオバサンでやっていた。オヤジが「発明」した、何とかラーメン？？と、変わってる、マアマアのオムレツがお勧めだった。

武村食堂

雪蹊寺

玄峰老師碑

昼食後、３４番・種間寺に向かう。雨は相変わらずシトシトだった。種間寺は田んぼの中だった。ここで記念撮影をしたが、帰ったら何故か写っていなかった。こんなことは初めてだった。

寺を出ると、辺りは一面のショウガ畑だった。とにかく高知はナス・ショウガ・ニンニク栽培が凄い。だが、何故か美味しそうなショウガが畑の回りに捨てて？？ある。なら拾いましょうで、わらわらと拾い集め皆で分けた。このショウガは、帰静後もなかなか重宝でした。

お遍路の裏道を進む。今日もぼちぼち終了時間だが、バスが来ない。ひとっ走りしてバスを迎えに行く。ここから今日の宿、３５番・青龍寺近くの三陽荘に向かう。

第６日目

１１月６日（日）晴　　歩行距離＝２６Ｋｍ

起床５：３０ー宿発バス７：００ー森山地先発７：３５ー３５番・清滝寺９：００～３０ー高岡町商店街—昼食「三陽荘」１１：３０～１２：２０ー塚地坂トンネル１２：４０ー３６番・青龍寺１４：１５～５５ー明徳義塾—宇都賀山地先１５：５０—須崎「西村旅館」（泊）１６：４０

お遍路最終日。昨日の最終地から出発。大きな仁淀川を渡る。天気はまあまあで川面に薄い霧が掛かっていた。反対から来た逆打ちの男性とすれ違う。歩き・単独・逆打ちだったが、一気かどうかは不明。

川の工事現場の看板に「真剣だと知恵が出る　中途半端は愚痴が出る　いいかげんは言い訳ばかり」の言葉があった。

清滝寺は標高約１００ｍの小高い山上にあった。急坂を上って境内に着いた。眺めは良い。眼下に高知自動車道が流れる。

仁王門を潜り、長い階段を上ると境内に着いた。左手に大きな観音像があった。お勤め後、高岡商店街を通過し、南下し塚地坂トンネルを潜り、宇佐漁港に下って行く。遥か前方には大きな、宇佐大橋が架かっていた。昼食は、バスで宇佐漁港に行き摂った。

午後は宇佐大橋を渡り、青龍寺に向かう。この橋は、手摺が低くてちょっと怖い感じだった。明徳義塾のバスが通過した。昔、朝青龍がこの学校に在籍したそうだ。　蟹ケ池の

縁を歩き青龍寺に入る。ちょっと古い感じの寺だった。

清滝寺

波切不動明王

青龍寺

この寺は、弘法大師が中国留学中、青龍寺の恵果阿闍梨について学ばれたが、帰国にあたって師の恩に報いるために有縁の勝地を選ばれるようにと、明州から東に向かって独鈷杵を投げられた。独鈷杵は東方に飛び、やがてこの地の山上にある松に止まった。

帰国した大師はこの地へ巡錫して独鈷杵を感得し、弘仁六年（八一五）嵯峨天皇に奏聞して一宇を建て、自刻の浪切不動を安置し、恩師を慕って寺名を青龍寺とした、とあった。

仁王門の左に滝があって行場になっていた。ただ、この滝は人工滝のようだ。境内には、剣をかかげた大きな、波切不動明王が佇立していた。

１２０段余りの階段を上り本堂に到着。ここで今回、最後のお勤めを果たす。ここから細長く須崎に続く半島を１６時まで歩き終了した。

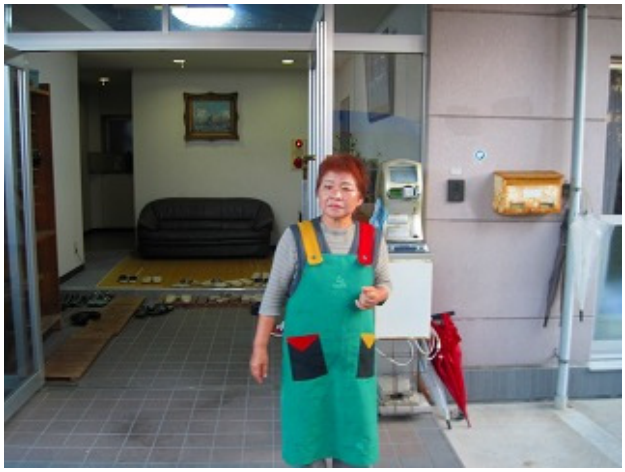
バスで今回最後の宿泊地、須崎の「西村旅館」に向かった。「西村旅館」は、婿の旦那が切り盛りしている旅館だった。シーツが使い回しでちょっと辛かった。食事はまあまあ、良かった。

第７日目

１１月７日（月）晴

起床５：３０ー宿発バス７：００ー高知自動車道ー徳島自動車道―淡路島―名古屋ー静岡ー長泉町１８：３０ころ

西村旅館



女将

バスに揺られて高知自動車道を走る。今回の帰りから自動車専用道路を使えるので少し早く帰れそうだ。お遍路は無事終わって良かった。

ただ、私は少々複雑な心境だった。出発前日、ピンピン元気だった９４歳の義母が突然亡くなった。何と言う間の悪さ・・・。今回のお遍路をどうするか、決断する時間はなかった。

実は義父の時も剣岳にいて葬儀に出られなかった。道楽をこいていると、親の死に目に会えない・・・典型的な親不孝例だった。

どうするか？？どうするか？？バス会社、宿、参加の皆はどうか？・・・・。しかし、しかし、結局実施した。ここで止める訳にはいかなかった。事後は自身で始末するしかないだろう。

帰着後、相当の軋轢はあった。特に娘とは険悪・泥沼・戦争状態で修復に、かなりの時間と努力が必要だった。

以上